「日々の理科」（第 4441 号） 2026, 10, -7

「秋の北極圏旅行記（21）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中　千尋　Chihiro Tanaka



ドゥンドレット山の駐車場から、本当の山頂まではもう少し歩きます。遠くに見える鉄塔は「航空灯台」です。麓からのスキーリフトもあります。



ちょうど良いサイズの石に、チズゴケ（地図苔）がついていました。日本の高山帯（北アルプスなど）でも普通に見られる種類です。



この道も何度も往復したので、Jokkmokk77km、Porjus33km という表示も見慣れました。



ポルユスへの帰り道で見た夕焼けです。太陽が浅い角度で沈むので、夕焼け空が長く続きます。



湖畔の素晴らしい夕暮れです。オーロラも美しいですが、こういう一瞬の景観も長く心に残るものです。



今回の旅行の最大の特徴は、同行友人の奥様とお嬢様が、食事の準備をしてくれたことです。この日の夕食は、肉じゃが、サーモンの野菜ソース・ユトロン添え、それに白いご飯です。私にとっては、普段日本で食べている食事よりも、よほど栄養バランスに優れた素晴らしい食事でした。コテージの狭いキッチンで、毎日毎日、感謝でした！



滞在したポルユス村には、大きなお店やレストランはありません。ただ、ガソリンスタンド併設のハンバーガーショップがあります。これがすばらしいハンバーガーで、しかもポマック付！缶ポマックは初めて見ました。後日、おみやげに何本も買いました。



午後には世界自然遺産「ラポーニア」の中にある、「ストーラ・ショファーレット」まで行きました。氷河の削ったＵ字谷のすばらしい景観です。



ストーラ・ショファーレットへの道は、国道に比べると格段に交通量が少ないので、トナカイとの遭遇率が高くなります。悠然と道を横切るトナカイたちの姿もまた、美しいものです。



しかし、やはり森の中のトナカイのほうが絵になります。この２頭は恐らく親子でしょう。まもなく訪れる雪の季節を前に、食欲旺盛なようです。



この道は、最奥部のシータス湖まで行くと、５～６時間かかり、往復では一日がかりになります。帰国日も近づいていたので、今回は中間地点付近の湖畔までにしました。このあたりが、ストーラ・ショファーレットの核心で、氷食地形がよくわかります。



帰りの国道への合流点です。ヨックモック、イェリバーレ、ポルユス（滞在地）の３つは、今回の旅行で何度も訪れた街です。この３つの地名が揃った道しるべがあるのは、ここだけです。